

シルバー人材センター安全就業に向けた実態調査

報告書

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所

令和4(2022)年3月

調査目的

シルバー人材センターの会員を対象に、過去 1 年間に発生した事故や怪我の実態や、安全就業に向けた取組みについての参加状況や認知度について把握し、安全就業の実現に向けた基礎資料とすることを旨とする。

調査方法

令和 3 年 11 月～12 月にかけて、東京都内 7 か所のシルバー人材センター会員に対して郵送のアンケート調査を実施した。調査票の作成および調査結果の集計は東京都健康長寿医療センター研究所が担当し、会員への調査票送付は各シルバー人材センターの担当者が行った。また、東京しごと財団は、本調査に際して研究所と各センターとの連絡調整を担当した。

なお、センター毎および全体の配布数や有効回収率（同意あり）、回答者の属性については表 1 の通りである。

表 1. 調査票回収率および回答者の属性

センター名	配布数	有効回収数	有効回収率	回答者の平均年齢	回答者の男性の割合
杉並	1675	1164	69.5	75.2	61.0
板橋	2305	1697	73.6	74.4	62.3
練馬	2378	1809	76.1	75.9	67.4
調布	1184	870	73.5	74.8	62.4
狛江	548	405	73.9	75.3	60.0
府中	1422	1143	80.4	75.1	68.1
日野	1128	887	78.6	74.1	72.4
全体	10640	7975	75.0	75.0	65.2

1. 就労目的

シルバー人材センター会員として仕事を行っている理由について、計 8 項目の選択肢の中から複数回答可として回答を求めた(図 1)。いずれのセンターにおいても「健康のため」が最多であった。2 番目に多い回答が「社会貢献・社会とのつながり」であったり、「収入目的」であったりと多少の違いはみられたが、就労目的については一定の傾向がみられた。

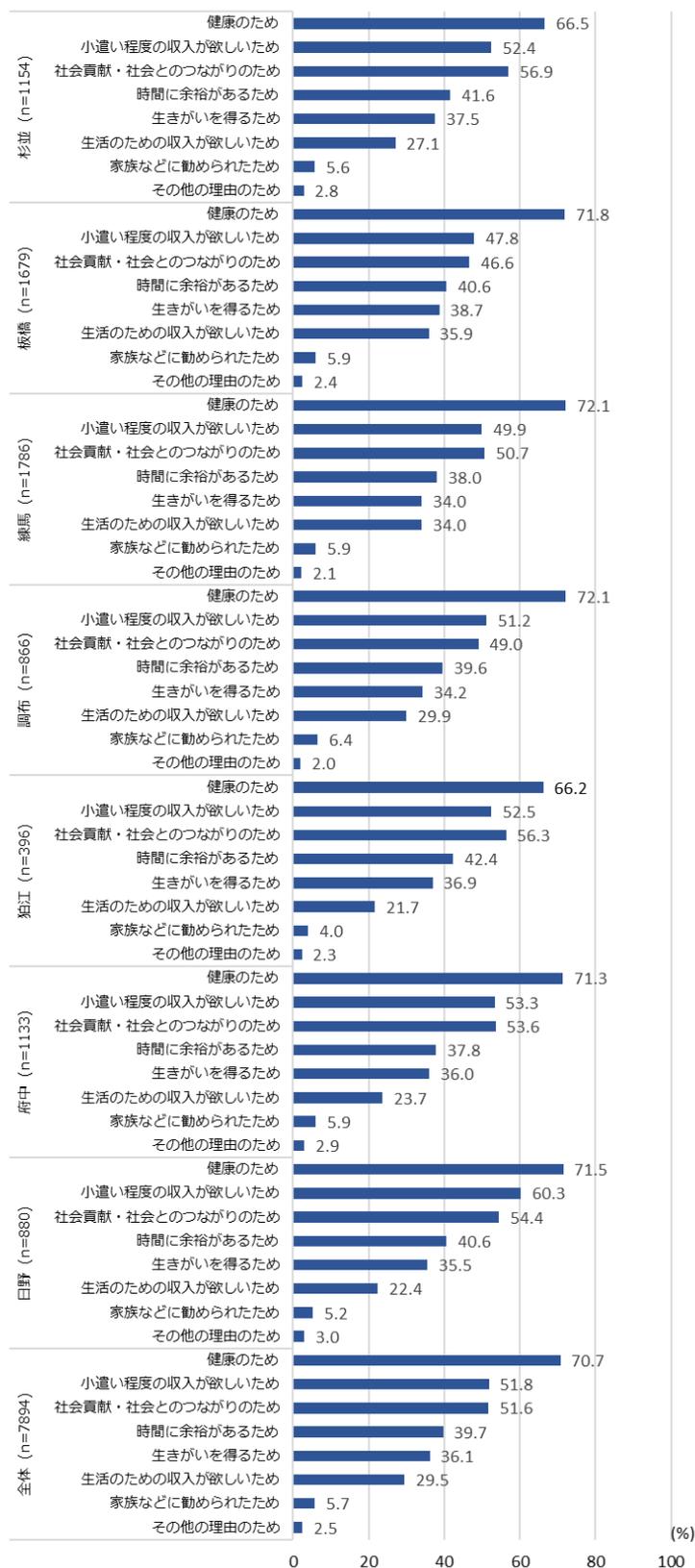


図1. センター別および全体の就労目的

2. 就労の満足度

シルバー人材センターの仕事に対する満足度を、「とても不満」0点から「とても満足」10点(点数が高いほど満足度が高い)までの1点刻みの評価スケールによって回答を得た。センター間での差はほとんどなく、平均で約7点であった(図2)。平均が約7点であることから比較的満足している会員が多い傾向がみ取れた。

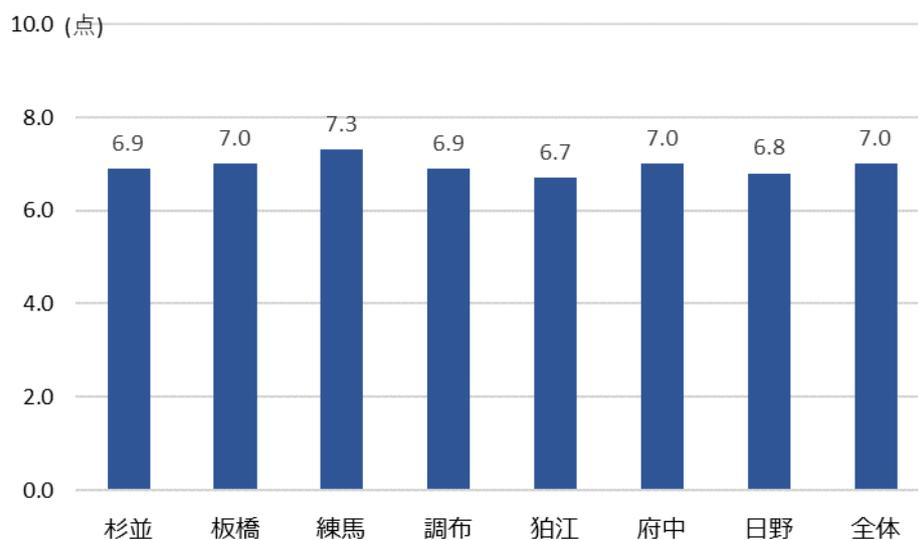


図2. センター別および全体の就労満足度

3. 事故の実態

過去一年間に、シルバー人材センターの仕事先への出勤時および退勤時に発生した事故については、全体で 1.8%と少ないことが明らかとなった。とてもわずかな差ではあるが、区部のセンターの方が市部のセンターに比べ事故が多い傾向にあるという結果となった。

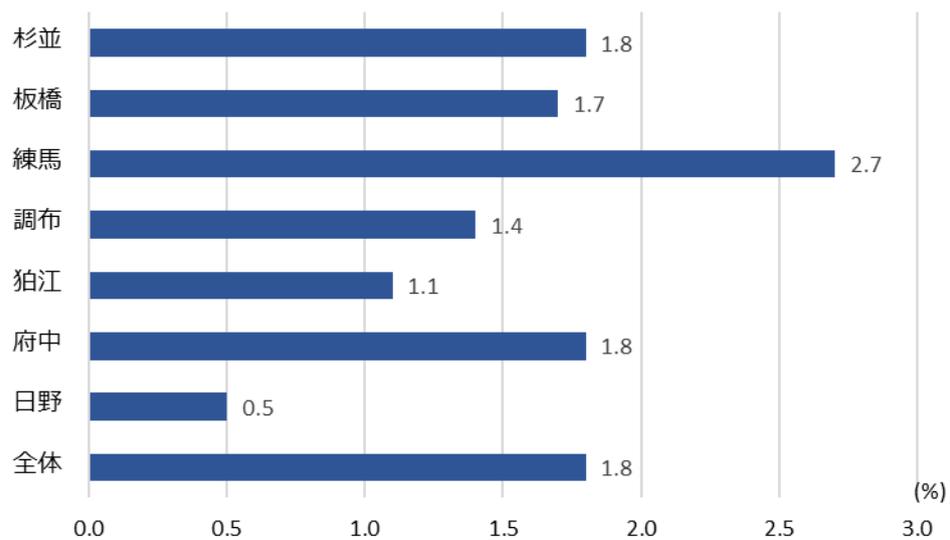


図3. センター別および全体の就業に行く際および就業から帰る際に発生した事故の割合

過去一年間における就労中の事故発生率について、各センターでの差はほとんどなかった（図 4）。事故内容については、いずれのセンターにおいても転倒が最多で、次いで物損事故が多かった。

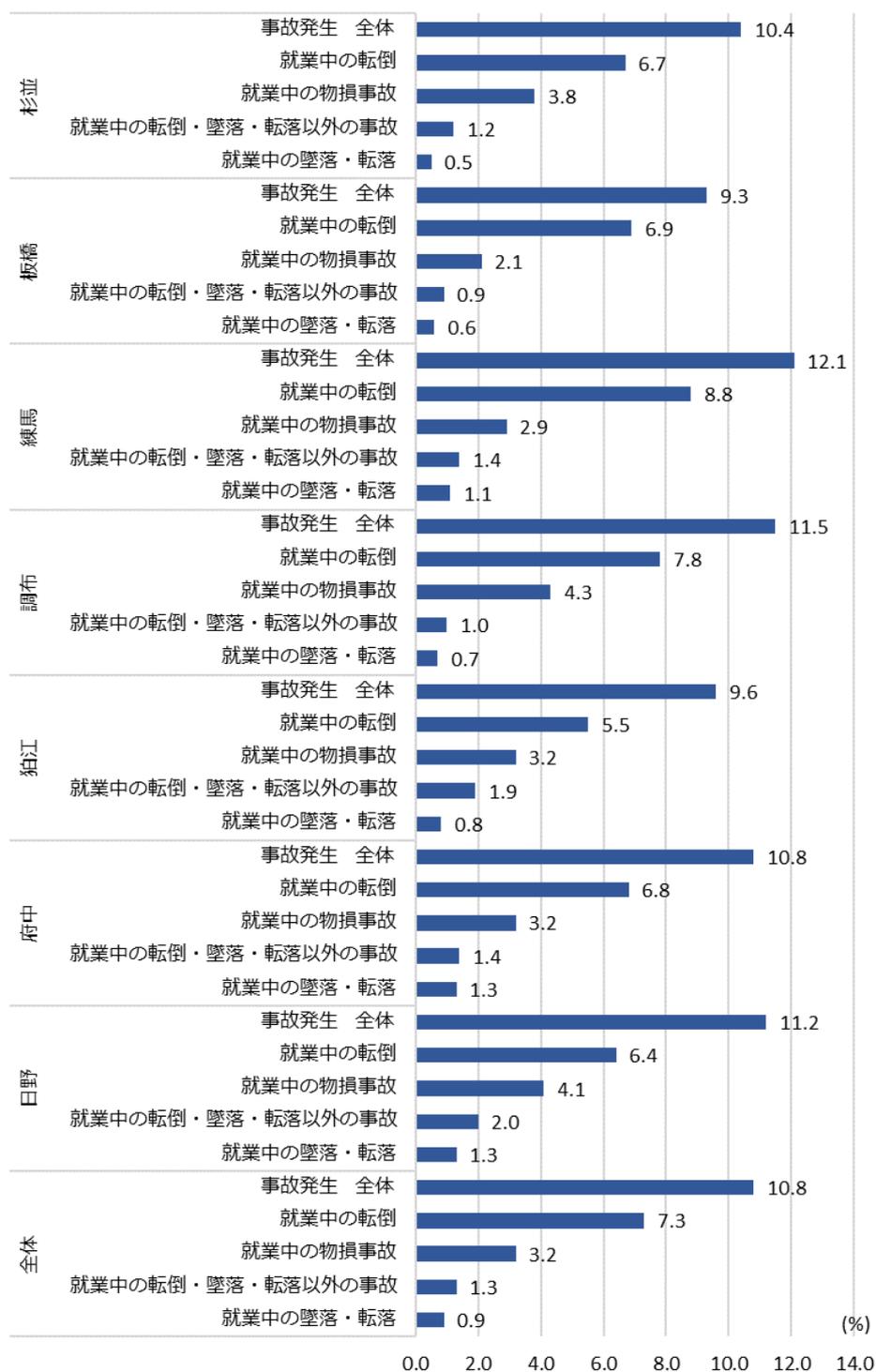


図 4. センター別および全体の就労中の事故の種類別割合

事故発生時に何らかの怪我を伴う割合は約 10%であることが明らかになった（図 5）。その中でも擦り傷や切り傷、打撲が主な怪我であり、これらの多くは、これまでに事故報告として挙がってきていなかった可能性がある。

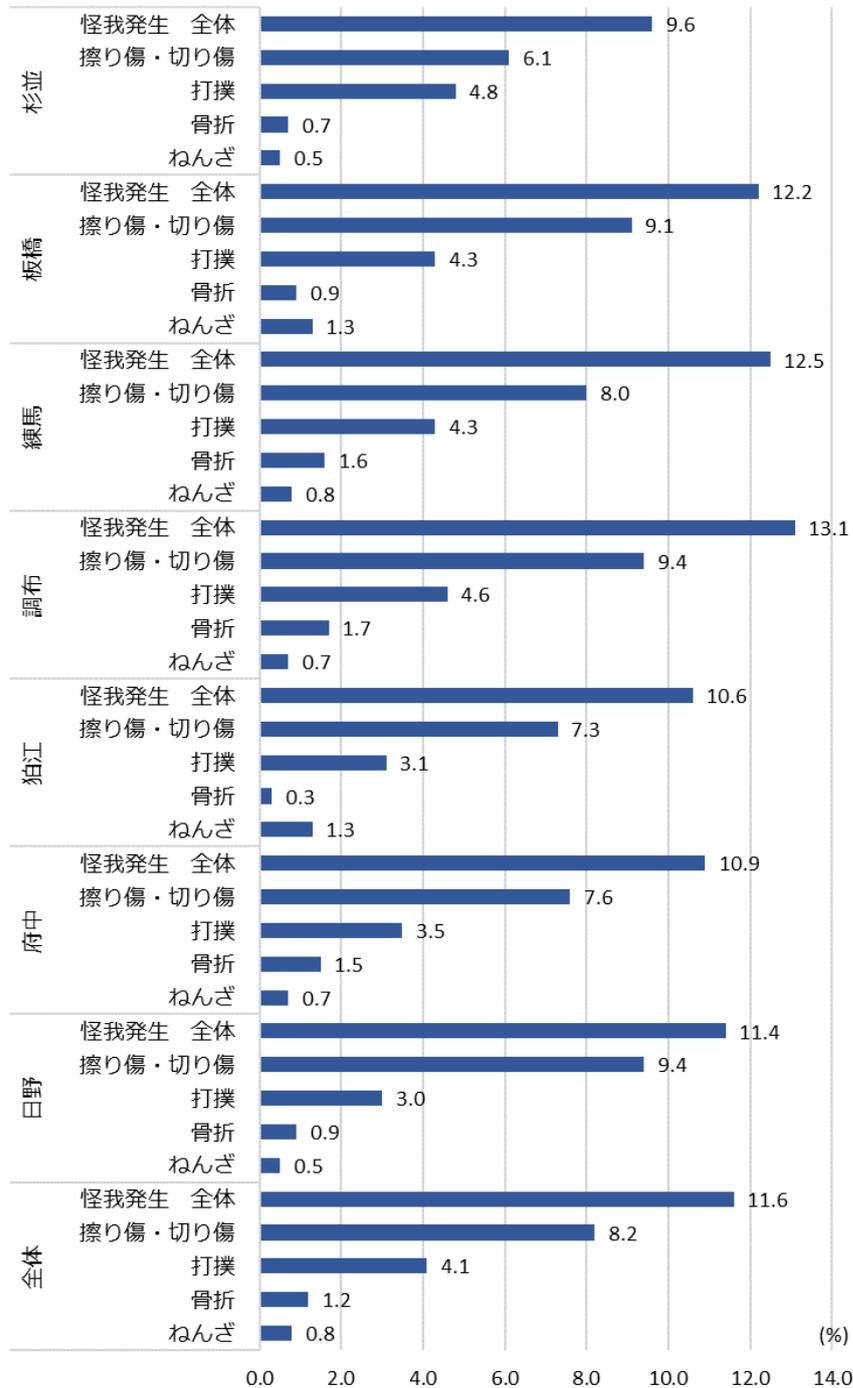


図 5. センター別および全体の怪我の内容

過去1年間で実施した業務内容と事故との関連性を集計し、発生率が高い5つの業務内容を示した(図6)。この表は、例えば、庭木の剪定に関する仕事をしたことがあると回答したことがある人のうち、16.9%が作業中に転倒したことがあると報告していることを意味している。ただし、業務内容については複数回答可であったため、庭木の剪定と、除草・草刈りの両方を行っている人の場合、どちらの作業で転倒したかは不明であり、重複して数えられている点に留意が必要である。庭木の剪定業務はいずれの事故にも含まれており、事故リスクが高い業務内容であることが示唆された。

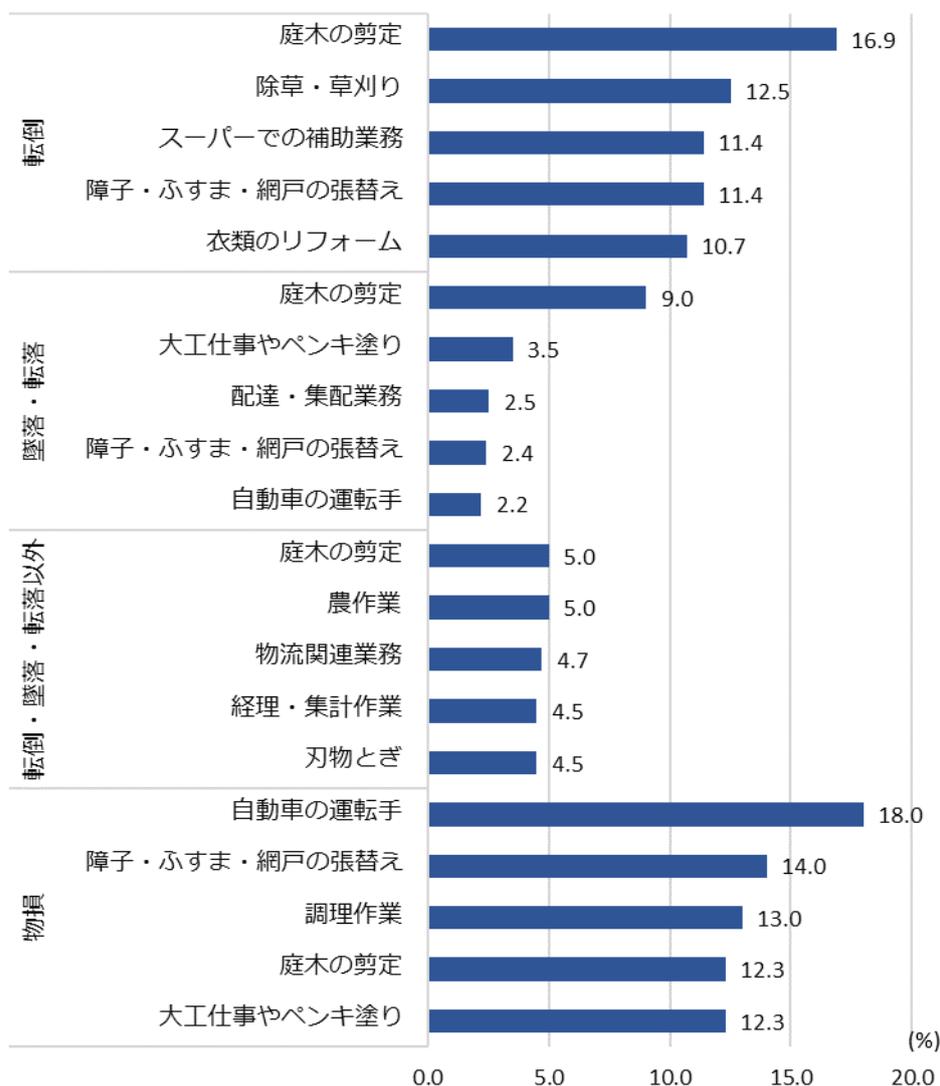


図6. 業務別の就労中の事故報告者の割合

シルバー人材センターの仕事に関する怪我の心配について、「怪我をする心配はない」「怪我をする心配が少しある」「怪我をする心配がある」の3件法で尋ね、心配が少しある場合および心配がある場合を怪我の心配ありとして評価した。その結果、シルバー人材センターに登録している会員の約40%が怪我の心配をしていることが明らかになった（図7）。調布市および狛江市で、怪我の心配がある会員が少ない傾向にあった。この理由は推測となるが、就労内容の違い（怪我のリスクが高い屋外での仕事が少ないなど）が関係しているのかもしれない。

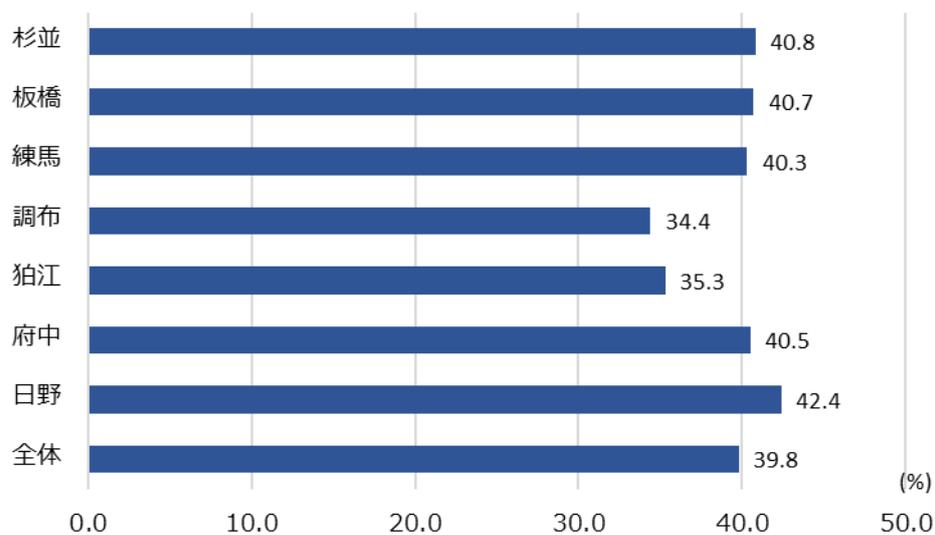


図7. センター別および全体の怪我の心配ありの割合

4. 安全就労に関する取り組みについて

市部センターの会員と比べて、区部のセンターの会員は安全就業研修への参加率が高い傾向がみられた（図 8）。特に、板橋区と練馬区のセンターにおける参加率が高い傾向にあった。一方で、安全就業に対する研修会の有効性については、センター間であまり差がなく、全体として 8 割程度の会員が安全就業研修を比較的有效であると感じていることが示された（図 9）。なお、研修会の有効性については、これまでに研修に参加したことがない人にも回答を求めた。

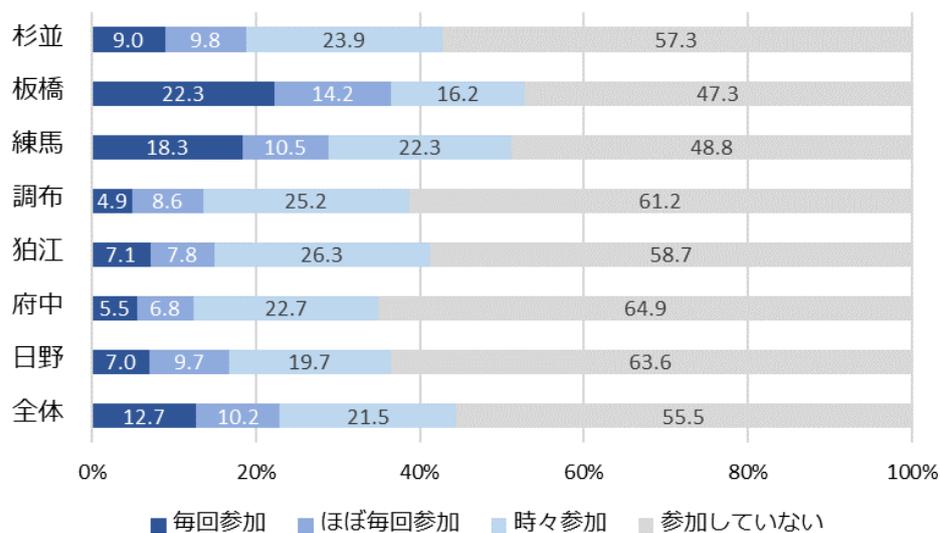


図 8. センター別および全体の安全就業研修への参加状況

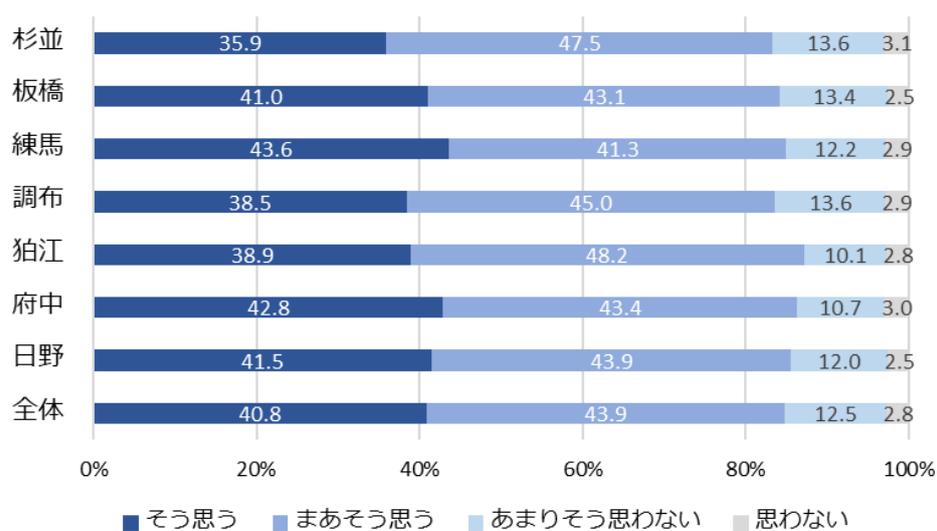


図 9. センター別および全体の安全就業研修の有効性についての認識

就業における安全啓発に関するチラシの認知については、センター間でばらつきがあり、練馬区シルバー人材センターで高い認知率であった（図 10）。全体としては 75%の会員が少なくとも一度はチラシを読んだことがあると回答した一方、約 15%の会員はチラシを知らないという実態が明らかとなった。安全啓発のチラシの有効性については、練馬区シルバー人材センターが他に比べて有効と感じている会員の割合が高く、残りの 6 センターはおおむね同様の傾向であった（図 11）。

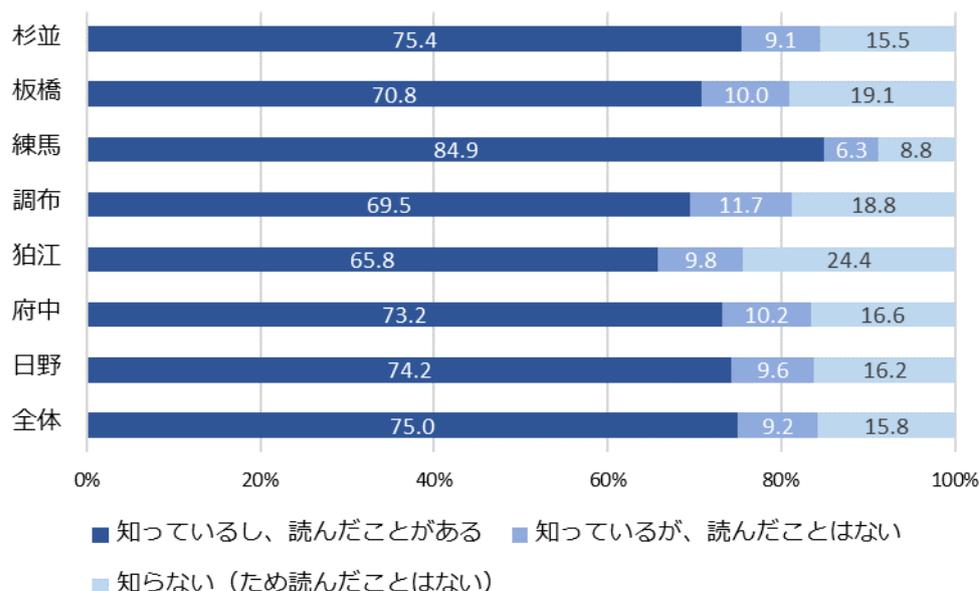


図 10. センター別および全体の安全啓発のチラシについての認知割合

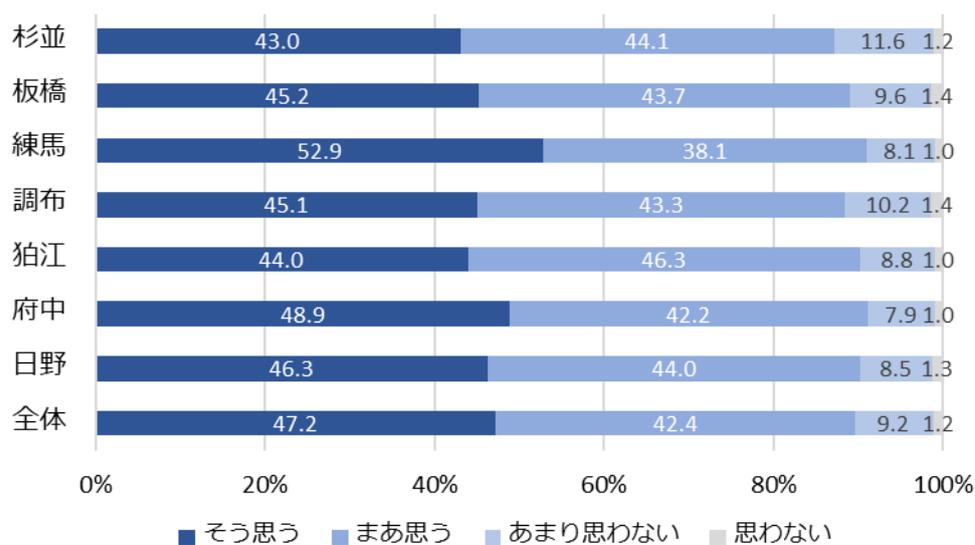


図 11. センター別および全体の安全啓発のチラシの有効性についての認識

5. フレイルについて

フレイル（虚弱）とは健常な状態と要介護状態の間の状態を意味しており、要介護状態になるリスクが高いことが知られている。標準化された（科学的な妥当性が確認されている）質問項目によってシルバー人材センター会員のフレイル度を調査した。具体的には、以下の5項目について、はい・いいえ、の2択で回答を得た。

- Q1. 6ヵ月間で 2-3kg の体重減少がありましたか。
- Q2. 以前に比べて歩く速さが遅くなったと感じますか。
- Q3. ウォーキング等の運動を週に 1 回以上していますか。
- Q4. 5分前のことが思い出せますか。
- Q5. (ここ 2 週間) わけもなく疲れたような感じがしますか。

望ましくない回答（Q1, 2, 5 は「はい」、Q3, 4 は「いいえ」）の個数が 0 個の場合を健常（フレイル非該当）、1-2 個の場合をプレフレイル（フレイル予備群）、3 個以上をフレイルとして評価した。センター間で大きな差はなく、シルバー人材センター会員の約 25%が健常、約 65%がプレフレイル、約 10%がフレイルであることが示唆された。

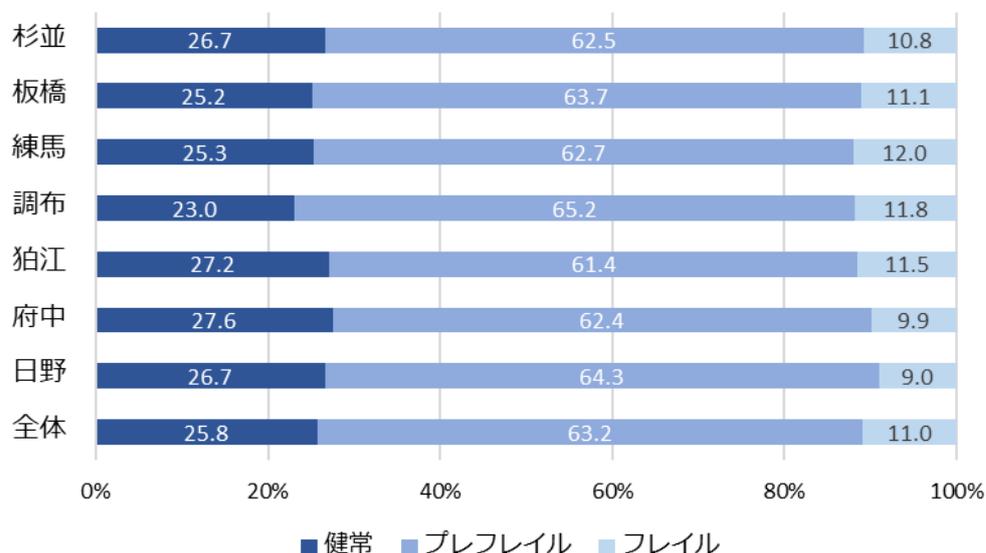


図 12. センター別および全体のフレイルの割合

事故の種類を問わず、フレイル、プレフレイル、健常の順に怪我が多いことが明らかとなった（図 13）。フレイル高齢者において転倒が多いことは、これまでの研究でも数多く報告されていたが、種類を問わず事故発生率が高いことが示唆された。

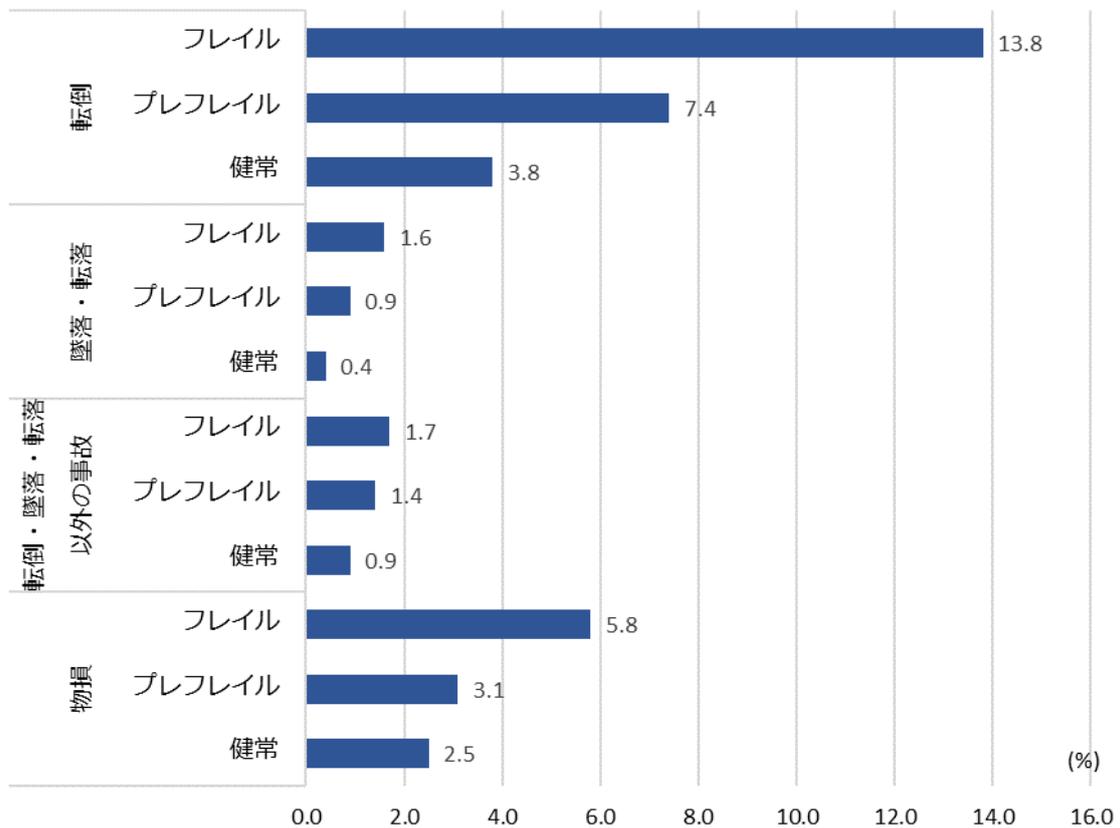


図 13. フレイル度別の事故の割合

怪我の種類はフレイル度に関わらず同傾向であった（図 14）。

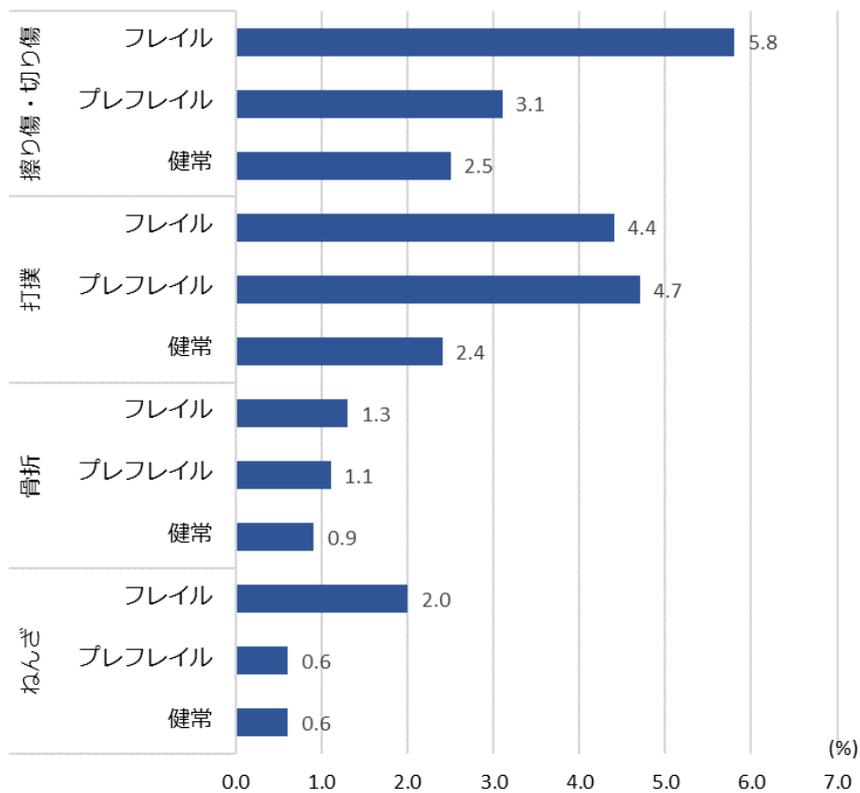


図 14. フレイル度別の事故の種類

フレイル度別の安全研修への参加状況を統計的に解析*したところ、健常に比べて、プレフレイルの者で12%、フレイルの者で39%参加率が低いことが明らかとなった（図15）。

*年齢や性、自身の怪我の心配度などの影響を統計的に取り除いた結果。RR はリスク比。

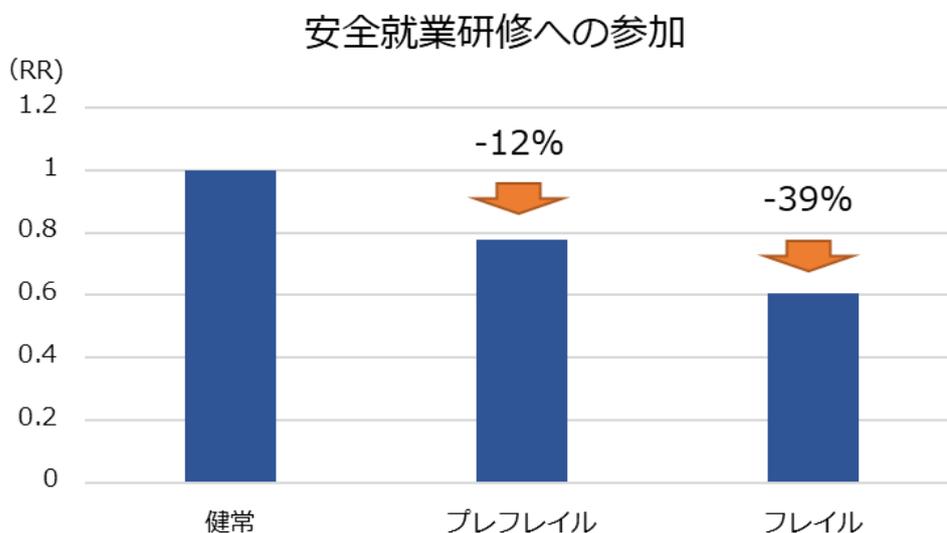


図15. フレイル度と案就業研修への参加との関連性

フレイル度別の安全啓発のチラシの閲覧（読んだことがある）について統計的に解析したところ、健常に比べて、プレフレイルの者で6%、フレイルの者で13%閲覧している者が少ないことが明らかとなった（図16）。

先の結果（図15）と併せて、事故率が高いフレイルの者ほど、安全就業について学ぶ機会に触れていないことが明らかとなった。

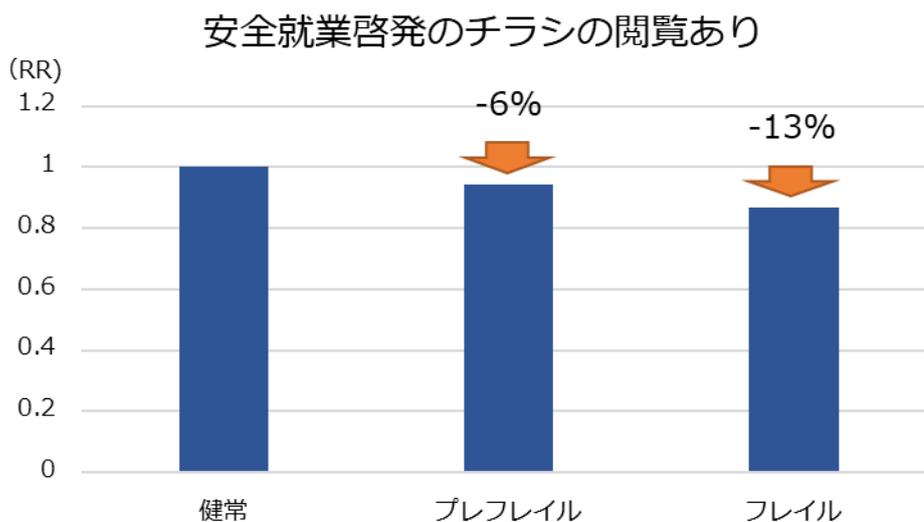


図16. フレイル度と安全就労啓発のチラシの閲覧との関連